

授業後 個別のフォローをする

チャイムが鳴り、子供たちは校庭に飛び出していった。CさんがD教諭に駆け寄り、「先生この続き、放課後にやってもいいよね。」と言って、そのまま友達の後を追って教室を出て行った。

Cさんは、「あまりのあるわり算」の筆算の仕組みがようやく分かるようになってきたところであった。まだ速く計算ができないため、プリントの半分しか授業中にできなかったのだ。

3年生になったころ、まだかけ算九九もおぼつかなかったCさんは、今まで、九九カードや九九表を使いながらわり算の学習を進めてきた。そんなCさんが、最近少しずつ九九表を見なくなってきた。そのことに気が付いているD教諭は、「よし、一緒にやろうな！」とCさんの後姿に声をかけた。



「分かるようになりたい。」「みんなと同じようにできるようになりたい。」という思いは、すべての子供に共通する思いです。この事例では、かけ算九九もおぼつかなかったCさんが、最近は九九表にも頼らなくなってきたことに、D教諭が気付いています。さらに、「もっと時間がほしい。」というCさんの願いを受け止め、明るく返しています。

分からなかった子や、作業が終わらなかった子に時間を与える

Cさんは計算の時間がかかってしまい、授業時間内にプリントを終わらせることができませんでした。「自分の力でやれた。」「一人でできた。」という実感をもつために、Cさんには時間が必要でした。

「公平さとは、全ての子供を同じように扱うのではなく、全ての子供が達成できるように、一人一人に応じた方法を提供すること。」とされています。「補助教具があれば」「時間があれば」達成できる子供には、その子供に合った補助教具や時間を提供することが大切です。「達成できた」という経験の積み重ねが、子供の成長に一番大切なものです。

授業後の質問に丁寧に答える

授業終了のあいさつの後、子供全員の顔を見渡すゆとりをもっていますか。一人一人の子供の顔には、「分かった」「楽しかった」という表情もあれば、「ここはどうなんだろう？」という表情もあります。教師がゆとりのある態度でいれば、「先生に聞いてみよう」という雰囲気がつくれます。質問に丁寧に答えてあげると、「先生に聞いても大丈夫」という安心感と信頼感が子供たちの中に広がります。